

時代に即した対応を

中田商事

中田商事（中田純一社長、三重県伊賀市）は今月から、乗務員の給与体系を一部、燃料価格に變動させる仕組みに見直した。

従来の給与体系は、売上高から高速道路料金と一律五%を差し引

いたものに同社独自の評価を乗じたものだが、一律五%の部分を軽油購入価格に連動した變動制に変更した。算出方法は、一般車両の場合で軽油購入価格百五―百十五円の場合、これまで通りの五%と設定。そこから十円単位で一%ずつ上下最大五%まで變動させていく。例えば九十五―百五円では四%と下がる一方、百十五―百二十五円では六%に上がるという仕組み。

県内で初めてサーチャージを届け出た同社。給与体系にもサーチャージ制を導入したかたちだが、中田社長は「燃料費の變動をどのように給与に反映させるか、ずっと難問

だった。燃料価格が下がったときには乗務員に還元し逆に高くなるとときには助けてもらうという考え。今のところ乗務員には感謝してもらっている」と話す。（加藤 崇）

給与にサーチャージ制



算出方法を話す中田純一社長

組み。